

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん1号店		
所在地	羽島市上中町708-1		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は、本人、家族ともが笑顔で安心して過ごして頂けるような施設作りをしています。日中はリビングに利用者が集まり、一緒に食事を作ったり、洗濯物を干したり、歌を歌ったり、ゲームをしたり、と家庭的な施設です。毎月沢山の催しを行い、花見、夏祭り等で季節を感じて頂いたり、喫茶店に出掛けたり、外出も沢山しています。また、メイク、マッサージ等の介護エステを月に1回開催しています。信心深い利用者の為に「お地藏様プロジェクト」と題して皆でお地藏様や地藏堂を作り、お供えするお花を育てる等、利用者一人ひとりのニーズに即して個別ケアを実践しています。家族が施設に来られることも多く、職員とも同じ時間を過ごし、会話を通して本人や家族の思いを知り、寄り添い、希望を実現出来るよう協同することで絆を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の助け合いが根付いた地域にあり、子ども会や老人会、民生委員を中心とした双方向の地域交流ができています。ホーム行事への住民の招待や地域から野菜や花の差し入れ、災害時の避難先として近隣の高層建築物を提案してもらうなど、地域との繋がりが強く、ホームが地域の一員として受け入れられ、地域と共に利用者の生活を支えている。
外出や屋外行事の再開に力を入れおり、久しぶりに行った喫茶店では、「元気でやっていたか？」という声をかけてもらい、利用者との馴染みの関係の継続を実感することができた。
利用者の身体機能が低下しても、本人、家族の「慣れた場所で最期まで過ごしたい」という意向を叶えるため、職員がチームとなって寄り添う支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に「スタッフ行動規範10か条」を朝礼時に唱和し全職員に周知出来るようにしている。職員、利用者、わおんに関わる全ての人の為に行動し、理念に基づいた支援の実践に努めている。	法人理念と行動規範10か条が記載されたカードを全職員が携帯し、「すべては皆の笑顔のために」につながる支援を考え、それを実践につなげている。利用者も職員もお互いに「ありがとう」と言えるホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の隣に円空堂があり、朝市、夏祭り、ふれあいサロン等があるため地域の方々との交流の機会がある。また、散歩にも良く出掛けており、近隣の方と挨拶したり会話をしている。	地域との交流が活発で、自然と地域の情報が集まってきている。市の花である美濃菊を利用者が育て、美濃菊展に出展している。菊の苗が配布される際、市からホームに連絡が入るといった関係性もできており、恒例行事になっている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催しており、施設での催し物、事業の実情と取り組み内容を報告し、意見交換している。	コロナ禍以降書面開催になっていたが、7月から対面開催が再開され、活発な意見交換の場になっている。「地域福祉を考える会」として開催し、ホームのためだけでなく、地域の人たちのための会議としても位置づけられている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で高齢福祉課、地域包括支援センターの方と交流している。月一回介護相談員の方が来て下さり、利用者様の相談にのって下さっている。	市や地域包括支援センターとの関係は良好で、様々な相談や情報交換をしている。介護相談員の訪問が再開され、利用者は楽しそうに談笑している。相談員が得た情報は職員へフィードバックされ、支援に活かされている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め、職員に周知をしている。介護技術委員会により年2回の研修、勉強会を行っており、知識を深めるとともに普段のケアの振り返りの場としている。	スピーチロック等の勉強会や、アンケートによる理解度の確認を繰り返すことにより、知識の向上を図っている。現在、身体拘束を行う必要性はないが、やむを得ない場合には、ルールに即して、適正な手続きを取ってから対応することになっている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護技術委員会主催の社内研修の中で高齢者虐待についての知識を得ている。毎月のヘルパー会議にて議題にあげ虐待防止に努めている。	毎月の会議で虐待の話題に触れ、職員が意識して支援するように努めている。研修での知識向上だけでなく、ユニット間で連携し、職員が共通認識の下で適切な支援ができるよう、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用された方がおり、実践する機会を得た。わおんグループに居宅支援事業所もあるため居宅のケアマネとも連携出来、学ぶ機会を得ることが出来ている。その際、家族とも話し合いを深めることが出来た。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は一つ一つの項目において丁寧な説明を心掛けている。ご利用者、ご家族の不安、疑問において傾聴し、理解、納得を図ってから契約等を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月事業所のたよりを「わおんだより」として新聞形式で、個別のお手紙にも写真を多く掲載し日常の様子をお伝えしている。面会時やLINE等でもコミュニケーションを多く取り、ご意見ご要望をお聞きする機会を設けることで運営に反映している。	気軽に話ができる関係性ができており、家族からの提案は職員で共有し、運営に反映している。ホームのことを理解し、協力してくれる家族が多く、ねぎらいの言葉をもらうことが職員の励みになっている。退居後も家族との関係が途切れないような支援に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議や各委員会にて職員の意見交換や提案を行っている。それをリーダー会議にて管理者、代表者に伝え改善に役立っている。	管理者は法人代表であり、意見を吸い上げやすい環境にある。職員の意見やアイデアを積極的に取り入れ、支援に活かす体制がある。チームワークが良好で、多くの意見が出る職場の雰囲気醸成されている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事評価制度の導入により画一的な給料設定ではなく個々の努力等も勘案している。リーダー会議において個々の努力や勤務状況が代表に伝達され、働きやすい職場作りにも反映されている。	介護休暇や育児休業の取得実績がある。復帰時に今後の働き方の相談をし、継続して働ける体制を整えている。働き方は個人の生活環境や事情に配慮している。困りごとや悩みにも気軽に相談ができ、ここで働いて良かったとの職員の声がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	わおんでは、特定技能実習生の受け入れを行い、働きながらトレーニング出来る環境を整えている。また、グループホーム協会、社協等の研修や事業所内の研修も行っている。	介護福祉士を目指す職員には、資格取得のための勤務の調整や年次有給休暇を取りやすくしている。行政からの研修の案内には、職員の希望により参加することができる。対面開催に参加することで他事業所との交流につながっている。	食事、入浴、身体介護や緊急時の対応など、日常の支援の基礎となる技術の向上や、身体拘束など権利擁護についての意識向上について、繰返し研修を行うことで職員への定着、更なる向上を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の交流を通じて知り合った施設に赴き、実際の支援や職員の意識向上、看取り、地域交流について等の意見交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、時には職員の悩みを相談し励まして頂くこともある関係性である。食事作りの時に梅干しや漬物、おにまんの作り方を教えて頂くこともある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、入所時の面談から、また、日常の雑談からご本人の暮らし方の希望、意向を把握している。困難な場合には、ご家族からの聞き取りや顔の表情、しぐさ等から推測している。	利用者の希望や意向は、「言ってもやってもらえない」ではなく、「またやりたい」と思えるよう、すぐに検討し実現させている。その思いを叶えるために家族の協力を得るときもある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時にご本人、ご家族等の意見を反映している。毎月のヘルパー会議時に職員の意見を聞いたり、医師、看護師の意見も反映している。	利用者の意向だけでなく、家族や医療関係者の意見を反映した介護計画を作成している。時には飼い犬も支援者となり、利用者が目標をもって取り組める内容となるよう意識している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護支援経過にて個別の記録をしている。申し送り時にケアについて話し合い、職員間で情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録と介護計画に沿った介護支援計画を作成することにより、目標の進捗状況や課題を確認している。個別記録やミーティング、日々のコミュニケーションにより職員間の情報共有がされている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	LINEを活用し、家族ごとに日々の様子を写真等で送らせて頂いている。遠方で中々面会が出来ない家族はそれを見て安心されている。他にも職員が散髪したり、オムツ費も家族持ち込みか施設が用意したものかを選べるようにしている。	利用者の願いを叶えるため、職員が1対1で支援する個別ケアの日を設けている。「友達に会いに行きたい」など少々ハードルの高いニーズにも応えられるよう、家族の協力も得ながら柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントの中でその方に必要な社会資源の把握に努めている。地域の方との交流も多くあり、繋がりを持って生活が出来るよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望で、かかりつけ医または協力医を選択することができ、定期的に医師や訪問看護師の往診を受けている。受診等の際には家族、職員間の連携、共有を行っている。	かかりつけ医は利用者の意向に沿うようにしている。専門医の外来受診は原則家族対応で行っており、利用者の状況は情報共有している。協力医や訪問看護との連携により、適切な医療を受けられる体制を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟との情報共有、医療サービスセンターへの相談を積極的に行っている。必要であればカンファレンス、共同指導も開催し早期に退院出来るよう努めている。また、衣類等を届ける際にも健康状態の把握に努めている。	入院時にはホームでの様子や生活歴など、細かな情報を記した支援経過を情報提供している。病院との情報共有を適切に行うことで、病状が落ち着いた時には早期に受け入れができるように努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについてお話をしている。体調の変化があれば家族に連絡し今後の対応や意向の確認を都度行っている。看取りの勉強会を事業所内で開催し、いざという時に職員が安心してケア出来るようにしている。	医療依存度が高い場合を除き、ホーム対応できる範囲で看取り介護を行っている。住み慣れた場所で最期を迎えて欲しいと望む家族は多く、主治医や訪問看護師と連携しながら、より良い最期を迎えられるよう職員がチームとなって支援している。	看取りの経験が少ない職員が、不安や後悔なく対応することができるよう、改めて看取りについて学ぶ機会を設けることを期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての話し合いを行い、実際の事例検討に基づき、応急手当や初期対応についてのシュミレーションも行っている。また、情報シートを作成したり、バイタル器具が入ったバッグを外出時に持って行くようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。水害対策としては大学教授などに見識者や市役所、県職員らとの検討会を複数回行い、協力して下さるライスセンターとの共同の避難訓練も行っている。	屋外に避難してからの見守りが課題となることを把握しており、ホームが孤立しないように地域の協力体制が構築されている。有識者によるアドバイスを基に災害対策を行い、繰り返し行うことで自然と体が動くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から自尊心に配慮した言葉掛けやケアの実践に努めている。夜間の支援時には、利用者とゆっくり過ごすための時間を作り、利用者の思い、不安などを傾聴し、精神的に安定出来るよう支えながら、その人らしく過ごせるよう支援している。	1対1になる入浴時や夜間はゆっくりお茶を飲みながら、日頃話せないことや、他の人には聞かれたくない話を聞くための時間として大切にしている。夜食を食べる習慣のある人、部屋に冷蔵庫を置きたい人など、その思いを尊重した対応をしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から会話する時間を多く持ち、その方の考え方や嗜好を把握するようしたり、意思決定しやすい環境作りに努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、おやつ等の時間は決まっていますが、その時間に部屋で過ごしたい方もおみえになり、その方の意思を尊重した言葉掛けや支援を心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はリビングで皆さん一緒に食べている。職員は利用者の好みを把握しており、献立や配膳を工夫している。一緒に野菜を切ったり食器拭きをお願いしたり、ホットプレートと一緒に調理したり、と楽しみながら行っている。	畑で採れた野菜や利用者からのリクエストも取り入れ、3食手作りしている。調理の準備や食器拭き等、やれることは手伝ってもらい、役割を持てる支援をしている。庭でバーベキューをするなど、非日常の食べる楽しみも味わっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員が作っている。週に3回の昼食は調理師免許のある方が食事作りをしている。各利用者の摂取状態は毎日の記録で把握し、血液検査結果の数値も参考にして食事内容も検討している。その方に合わせた食事形態、器の工夫もしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。週に1回訪問歯科が来訪し、契約された方の口腔ケア、診療も行っている。その際に連携し口腔状態の把握やケアの仕方を学んでいる。歯ブラシ等の日光消毒を毎日、ミルトン消毒も週1回行っている。	訪問歯科医による義歯の調整や歯磨きのアドバイスにより、口腔内のケアを適切に行い健康保持に取り組んでいる。毎食後の口腔ケア後、歯ブラシ等のケア用品の衛生管理にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はなるべくトイレで排泄して頂くようにし、その方に合わせた回数にしている。排泄の自立に向けた話し合いを行い、紙パンツから普通のパンツに改善された方もおられる。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本に、利用者の希望を取り入れながら入浴方法や時間を調整している。入浴支援は1対1のコミュニケーションの時間として大切にしており、ゆったりとリラックスして入浴できるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの健康状態や状況に合わせて昼寝をしたり、早めに就寝して頂いている。家では夜食を食べながらテレビを見る習慣のある方がおり、家族と相談し夜食を用意したり、一緒にテレビを見たりすることで生活習慣に合わせた支援もしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携を図り、薬についての知識を深めている。普段の服薬内容だけでなく変更があった際はスタッフ間で周知徹底を行っている。誤薬の無いように色分けや日にち分け、内服チェックを3回行っている。	利用者ごとに担当する薬剤師が異なる場合でも、薬剤師と主治医との連携により、薬の調整など迅速に対応できている。薬剤師とは薬の話をするだけでなく、お互いの知識を深めるために、看取りの勉強会を一緒に行ったこともある。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お参りが日課だった方が雨の日でも出来るように地藏堂を皆で作ってお参りを毎日出来るようにしたり、好きな物が食べれるようにお部屋に冷蔵庫がある方もみえる。それぞれの強みを活かし、楽しみを叶える支援をめざしている。	ホームの飼い猫の世話や畑の管理など、それぞれに役割がある。写経、読経、散歩などを生活習慣の一つとして、メリハリのある日々を過ごしている。道の駅に買い物に行き、自分で支払いをすることを楽しみにしている利用者もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と相談し、本人の思い出の地やお墓参りに出掛けたり、車酔いがある方でもお出かけ出来る場所を工夫している。その時々花が咲く場所や紅葉を愛でたりと季節を感じて頂けるような場所に赴いている。	毎日の散歩や公園へのピクニック、花見など、日常的に外に出て過ごすことがあり、家族との外出も行なっている。「計画、即実行」をモットーとし、「向日葵が見頃だよ。じゃあ、今日行こう」と職員も利用者と一緒に楽しむ雰囲気がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を持っていると安心」と言われる利用者には少額が入った財布を所持して頂いたり、買い物の際は選ぶ楽しみを感じて頂き、支払いを代行させて頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には、使い方をお手伝いしたり、話しやすいように居室に移動して頂いたりしている。年賀状や暑中見舞いを書いており、その方に応じてサポートしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年2回の大掃除も含め共用スペースの掃除には力を入れている。整理整頓にも心掛けることで心地良い空間作りを心掛けている。玄関やホールの壁には季節感のある壁飾りなどを利用者と一緒に作り飾っている。	利用者の状態に応じ、共有スペースの家具の配置を変え、安全な動線の確保や過ごしやすい環境を工夫している。1日中ベッドで過ごす利用者が、窓から外を見て楽しめるように花を育てたり、季節感のある飾りつけをしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、食事が終わると自然にテレビ前に移動され仲良し同士がお話されたりしておられる。テレビ前にはソファがあり、椅子もあちこちに配置されており、銘々自由に過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビを見たい方は居室に持ち込んだり、冷蔵庫が部屋にある方もみえる。馴染みの物や家族のプレゼント、写真等を飾ったり、その人らしい空間作りをしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かり易く書き、示すことで行きたい時に行ける工夫をしている。椅子も一人で動き易い物にしたり無駄な家具を置かないことで安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社 ワオン		
事業所名	グループホームわおん2号店		
所在地	岐阜県羽島市上中町中705-3		
自己評価作成日	令和5年10月29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち施設では、笑顔溢れるアットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者様、職員の信頼関係も良好です。利用者様がイキイキして生活して頂ける様に毎月季節に応じて、外出や喫茶店など馴染のある所に行っています。季節の作品を毎月作成し、季節感を味わって頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が、書かれているクレドをほぼ全員のスタッフが、持っている。朝の申し送りの時に読む事で行動規範と理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、円空市場、おみこし、菊の祭典等地域の行事に参加している。水害訓練では山田製作所にお世話になり、地域の方から野菜やお花が届き、社会とのつながりを心掛け、地域の一員として交流している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ対策が緩和されて、8月頃から再開している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の現状や空き情報を報告、相談して連携している。月1回、介護相談員の訪問があり、サービスの質の向上を一緒に考え協力してくれる体制が築けている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護技術委員会が年に3回以上身体拘束をしないケアの話し合いを行い、年に2回研修をヘルパー会議で開いて皆に周知している。アンケートや意見も記入してもらい、皆で理解できる場を作っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修を開催し、その中で勉強会をして意識を高めている。利用者様に対しての言葉遣いを気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されてみえる方はいないが、ケアマネの研修で学ぶ機会を持ち、必要時話し合えるように支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明させて頂き、ご利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、納得頂いてから契約している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見や要望は早期にリーダーから管理者に報告して対応されている。担当者会議は3ヶ月毎に行っているが、その他にも電話やメールでご家族に希望を伺っている。リーダーに報告して、管理者に伝えてもらい、運営に反映している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会で話し合ったことはヘルパー会議で報告しており、職員の意見や提案をリーダー会議で検討され、反映している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフが意見を言いやすい環境に心がけている。個々の個性を活かせるようにしている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、委員会を作成し研修を開催している。新人職員の働きやすい環境にしようと努力してくる。スタッフのペースで、働いてもらえる様に要望を聞きながらシフトを組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ緩和で、研修の再開や徐々に地域との交流を始めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は人生の先輩であり私たちの先生でもある。尊敬の念を持ち、一緒に過ごせる環境に感謝しながら関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや要望を把握して、スタッフ共有している。会話が困難な方はご家族から生活歴や趣味を伺い表情やしぐさから感じ取っている。会話する時は時間や場所に配慮している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回担当者会議を開き、本人、ご家族の希望、課題を話し合っている。担当者にはモニタリングを記入して頂き、各種関係者とも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	話し合いの結果をケアプランに反映し、ケアの実践、気づきや工夫を介護記録に記入している。ヘルパー会議で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の変化やニーズを把握して、柔軟に対応できるように取り組んでいる。外出、外泊、図書館、畑仕事等、やりたい事や必要な事は協力して行い、満足して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族が協力して下さってピアにコンサートを開いたり、円空市場、近所の方から野菜を頂いたり、図書館の利用、お寺、神社など、地域と関わり合いながら豊かで望む暮らしを支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族が望むかかりつけ医に診て頂いている。入所前の状態を把握しているので、本人も安心感があり施設ともスムーズな情報共有や連携が築けている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は情報共有しており、生活歴や趣味等も記入するようにしている。小まめに面会に伺い、担当者、看護師と連携に努め、必要時はカンファレンスを開催し早期に退院できるように努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じてACPのアセスメントをして、本人、ご家族の思いを受け止め、事業所でできる事をお伝えしている。医療が必要な場合は地域の関係者チームで支えている。終末期の予後予測を共有している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に急変時の対応の仕方を伝授して頂き、ヘルパー会議で共有している。緊急時対応マニュアルが置いてあり、すぐに見られる様にしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は、コロナ緩和されていて、施設内の訓練、情報交換、勉強会をしている。消防士は、呼べていないが、もっとコロナが緩和されたら消防署の方に来ていただき指導して頂きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけやケアの実践に努めている。他者に聞かれたくない話は夜間や浴室内で個別でお聞きしており、不安や精神的に安心して生活して頂ける様に心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を早期に築くことで、希望を伝えてもらったり自己決定できるように働きかけている。また、難しい方は選択制したり、表情から読み取っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶から本人が何を望んでいるのかを感じ取り、その日の過ごし方を皆で話し合い、個別ケアの充実に心がけている。希望がかなえられるように支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を収穫して一緒に枝豆ちぎりや里芋の皮むきをして、活躍できる場を作っている。調理の下ごしらえや準備片付けも一緒に行い、皆の力が発揮できる元気の源、楽しみなものになっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、介護記録に記載して、食事量、水分量を把握している。嚥下の状態、咀嚼の力を見ながら食事の形態を工夫して、栄養バランスの取れた食事が摂取できるように努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて仕上げ磨きをしたり、口腔内の状況や誤嚥にならないようにウエットティッシュやスポンジを使い分けている。各務歯科に助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの声掛けをしたり、尿意のある方には教えてもらい介助している。手すりの利用で本人の力も大切にしている。夜間は本人の希望でポータブルトイレを置いて安心して休める環境を作っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本週3回と決まっているが、本人の希望に合わせて調整している。ゆず湯を楽しまれ、個々の状態に合わせて一人でゆっくり入ってもらう事もある。コミュニケーションの場として大切にしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにソファがあり、リラックスできる環境を作っている。夜間、寝付けない方には温かい飲み物をお出ししてお話を伺い、安心して眠れる環境づくりをしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や受診時は本人の状態、希望を主治医に伝えている。薬剤師との連携や薬が変わった時は状況の変化を観察している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を活かした役割、希望、やりたい事をお聞きして、一緒に計画している。個別ケアを大切にしており、喜びのある日々が過ごせれる様に支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ピクニックに行きたい、川が見たい、去年見た花が見たい、お友達に会いたい、犬と散歩したい、家に行きたい、神社に行きたい等ご利用者の希望はケアプランにのせて、ご家族や地域の方の協力を得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理したいとご希望のある方には、所持してもらっている。施設で管理している方でも買い物、喫茶店のお支払いはご本人にお渡しして使えるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されてみえる方はご自身で電話をかけてみえる。遠距離で会えない方にはビデオ通話を利用したり、手紙や絵手紙を書いてご家族やお友達と交流できるように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品を一緒に作り壁や天井に飾っている。ご利用者の作品は玄関に飾り、ご家族も喜ばれている。庭には季節の花が咲くように種をまきベッド上からでも見れる様に工夫している。猫もご利用者も心の癒しになっている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、ご利用者同士で会話したり、猫を撫でて癒しの空間になっている。畳や椅子、書齋があり、ご利用者が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切な写真、馴染の物、わおんで作った作品が置いてあり、居心地よく生活できる場所になっている。体調や状態に合わせてベッドの位置を変えて、移乗、移動がしやすい環境を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でやりたいという思いを尊重しており、手すりの設置やお手伝いしやすいように椅子の配置、食器は手の届くところに置いている。ご自身で作品の材料を出し入れできる工夫をしている。		